

川越市観光アンケート調査

報告書

平成 20 年度



スマイルシティ・川越

平成 21 年 5 月

川 越 市

目 次

1. 平成20年川越市入込観光客数の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2-2. 観光アンケート調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2-3. 観光アンケート調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2-3-1. 出発地調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2-3-2. 性別調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	10
2-3-3. 年齢調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	10
2-3-4. 同行者調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	11
2-3-5. 交通手段調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	11
2-3-6. 滞在期間調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	12
2-3-7. 観光時間調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	14
2-3-8. 来訪回数調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	14
2-3-9. 認知方法調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2-3-10. 立ち寄り観光地調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2-3-11. 交通費調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2-3-12. 宿泊日調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2-3-13. 飲食費調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	18
2-3-14. 入館料・入場料調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	18
2-3-15. お土産品購入費調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	19
2-3-16. 要望調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	19
2-3-17. 意見・感想調べ・・・・・・・・・・・・・・・・	20
3. 観光消費額・・・・・・・・・・・・・・・・	21

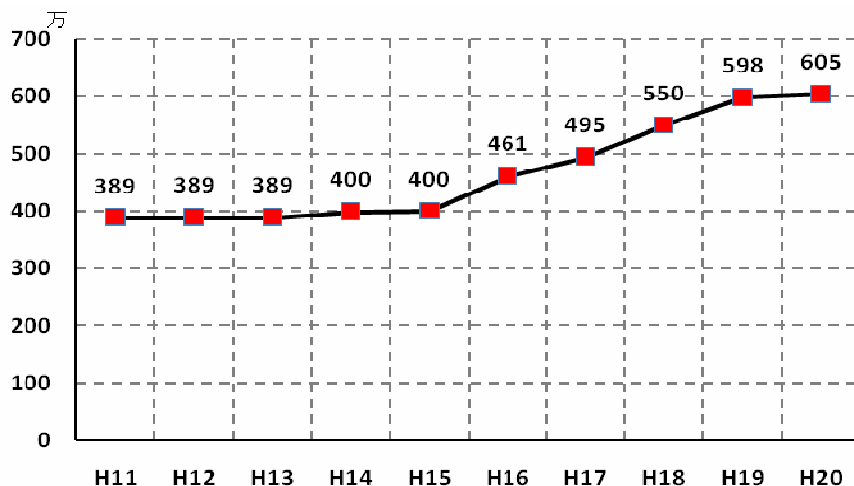
1. 平成20年川越市入込観光客数の概要

平成20年に川越を訪れた観光客数は、604万7千人であった（外国人観光客含む）。前年に比べて6万6千人の増加となり、伸び率は1.1%であった。

平成20年観光客カウント調査より、観光客が多く訪れる喜多院・時の鐘・菓子屋横丁が前年に比べ減少した。喜多院は約4万2千人、時の鐘は約6万4千人、菓子屋横丁も約6万4千人の減少であった。

また、5館（市立博物館・市立美術館・川越城本丸御殿・川越まつり会館・蔵造り資料館）の入館者数は、市立美術館と川越まつり会館は前年に比べ増加したが、ほかの3館は減少となった（川越城本丸御殿については10月21日より改修工事のため拝観はできなくなっている）。これらの減少が大きかったために、観光客数が前年に比べ微増に止まったと考えられる。

（図1）過去10年の川越市入込観光客数



また、平成20年に川越を訪れた外国人観光客は、39,000人となった。前年に比べて8千人の増加となり、伸び率は25.8%であった。

現在、観光庁において2010年に訪日外国人旅行者数を1千万人とする目標に向け、ビジット・ジャパン・キャンペーンが取り組まれている。本市においても、外国人観光客の誘致に向け観光ルネサンス事業を平成19年・20年度に実施したことから、その効果が増加につながっていると考えられる。

2. 観光アンケート調査の統計・分析

2-1. 観光アンケート調査の趣旨

川越市では、平成 17 年（標本数：9,924 件）、平成 19 年（標本数：7,491 件）と観光アンケート調査を実施してきた。

当調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、アクセス方法、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を整理することができた。

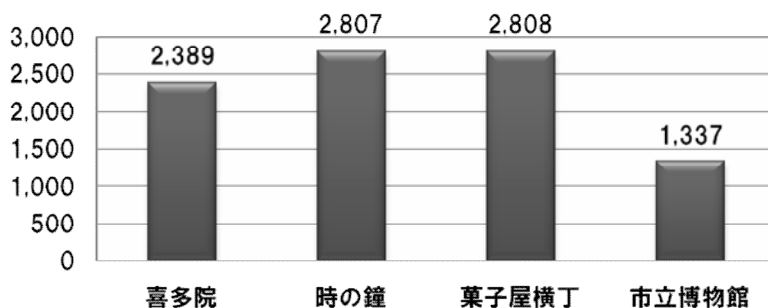
当調査の実績に基づき、平成 20 年度も同様の調査を行うことによって経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することにより、今後の観光振興策の重要資料にすることとした。

2-2. 観光アンケート調査の方法

平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月までの 1 年間を調査期間とし、主要観光地点 4 箇所において、各地点を通過する観光客に対して、聞き取りによる計 9,341 件の観光アンケート調査を実施した。

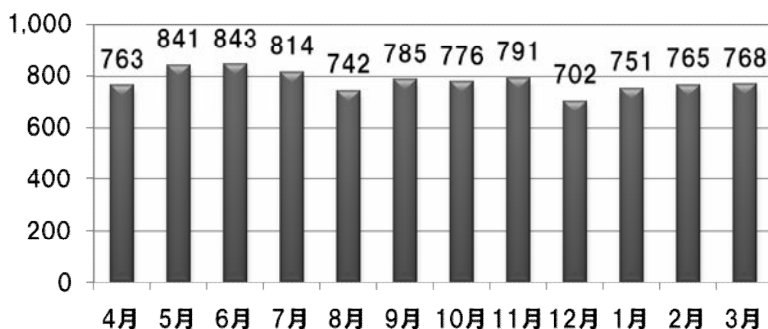
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は図 2 のとおりである。

（図 2）観光アンケート調査地点と聞き取り件数



また、図 3 のとおり、9,341 件の観光アンケートは月による偏りが出ないように、月毎に調査を実施した。

（図 3）各月の観光アンケート調査数



参考：実際に使用した観光アンケート（左：1 ページ目、右：2 ページ目）

川越市観光アンケート調査票		アンケート 記入欄	川越市 記入欄
★調査員の方へ★ アンケートの際は、右の地点、年、月、日の欄を最初に記入し、問1以降は該当する項目を丸で囲むか直接記入してください。右の点線内には記入しないでください。		地点 年 月 日	調査員 記入欄
問1 お住まい、性別、年齢をお教えてください。 (1) 都道府県名 () (海外の方は国名) ※埼玉県または東京都にお住まいの場合、市区町村名 () (2) 男性 女性 (3) 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳以上		1 2 3	川越市 記入欄
問2 どなたといらっしゃるいましたか。(ひとつだけ) ①ひとり ②夫婦 ③子供連れ家族 ④その他家族(両親や兄弟など) ⑤友人知人 ⑥仕事仲間 ⑦地域の団体 ⑧学校の団体 ⑨その他		2	
問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ) ※複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段 ①JR線 ②東武線 ③西武線 ④路線バス・タクシー ⑤観光バス ⑥自家用車 ⑦バイク・自転車 ⑧徒歩		3	
問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ) ①1日帰り ②1泊 ③2泊 ④3泊 ⑤4泊以上		4	
問5 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ) ①1時間程度 ②2時間程度 ③3時間程度 ④半日 ⑤1日 ⑥1日以上		5	
問6 川越にはこれが何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ) ①初めて(1回目) ②2回目 ③3回目 ④4回以上		6	
問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可) ①テレビ・ラジオ ②新聞・雑誌 ③ポスター・パンフレット ④知人などに勧められて ⑤旅行会社のツアー ⑥インターネット ⑦最初から知っていた(地元の方も含む) ⑧その他 ()		7	
問8 川越のどこを観光されましたか。(複数回答可) ①蔵の町並み ②蔵造り資料館 ③時の鐘 ④菓子屋横丁 ⑤川越まつり会館 ⑥市立博物館 ⑦市立美術館 ⑧川越城本丸御殿 ⑨喜多院 ⑩成田山別院 ⑪蓮馨寺 ⑫氷川神社 ⑬伊佐沼・伊佐沼公園 ⑭その他 ()		8	
問9 川越市内において、一人あたりいくらくらい使われます(しました)か。 (1) 交通費(バス・タクシー代) () 円 ※タクシーを複数人で利用の場合、人数で割った額 (2) 宿泊費 () 円 (3) 飲食費 () 円 (4) 入館料・入場料 () 円 (5) お土産購入費 () 円		9	
問10 川越に対しての要望についてお聞かせください。(複数回答可) ①交通の安全性の向上 ②駐車場の整備 ③観光スポットの充実 ④無料休憩所・トイレの整備 ⑤観光案内板等の整備 ⑥公園の整備 ⑦観光パンフレット・ガイドの充実 ⑧障害者への配慮 ⑨レンタサイクルの導入 ⑩その他 ()		10	
問11 その他川越についてご意見・ご感想などご記入ください。		11	

調査に協力を頂いた観光客に対しては、調査終了後に「川越まつり会館ポケットティッシュ」を手渡した。

参考：川越まつり会館ポケットティッシュ



２－３．観光アンケート調査の結果

２－３－１．出発地調べ

アンケート回答者総数 9,341 名のうち、国内が出发地の観光客が 9,135 名、国外が出发地の観光客が 206 名であった。

以下出発地の分析を、国内と国外に分けて行う。

（１）国 内

①都道府県別

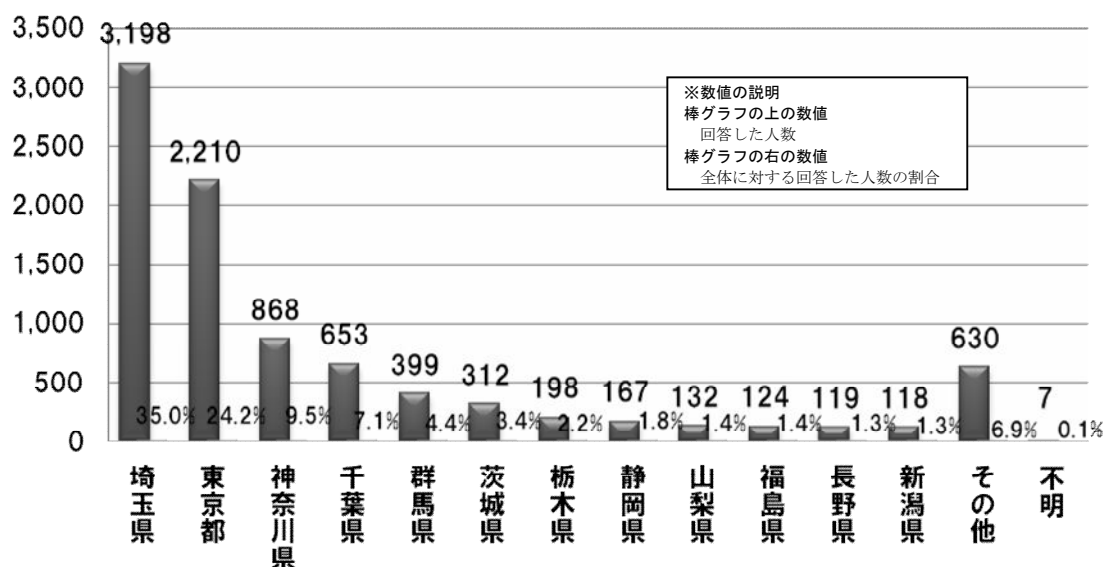
川越を訪れた観光客の約 85.8 %が関東地方の各都県から出発しており、上位を占める結果となった。（図４）関東地方以外では、北陸・信越地方、また東北地方からの観光客が増加してきている。

特に、県内市町村および東京都を出发地とする観光客が、全体の過半数となる 59.2 %となり、首都圏から約１時間で訪れることのできる立地特性を活かしたものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出发地とする割合が 40.8 %と、前年より 2.9 %、平成17年より 9.6 %上回り、遠方から訪れる観光客割合が年々増加していることが伺える。

関東地方の各都県以外では、静岡県（167名、1.83%）、山梨県（132名、1.44%）、福島県（124名、1.36%）から出発した観光客が多かったものの、表１のとおり、全国の各都道府県から川越へ観光客が訪れている結果となった。

（図４）出発地



(表 1) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	7, 838名	埼玉県(3,198), 東京都(2,210), 神奈川県(868), 千葉県(653), 群馬県(399), 茨城県(312), 栃木県(198), 山梨県(132)
東海	263名	静岡県(167), 愛知県(74), 岐阜県(17), 三重県(5)
東北	279名	福島県(124), 宮城県(68), 岩手県(28), 山形県(24), 青森県(19), 秋田県(16)
北陸・信越	404名	長野県(119), 新潟県(118), 石川県(18), 富山県(11), 福井県(6)
近畿	110名	大阪府(46), 兵庫県(32), 京都府(19), 滋賀県(7), 奈良県(4), 和歌山県(2)
北海道	73名	北海道(73)
九州・沖縄	91名	福岡県(31), 熊本県(20), 鹿児島県(14), 沖縄県(10), 長崎県(7), 宮崎県(4), 佐賀県(4), 大分県(1)
中国	46名	広島県(19), 岡山県(9), 山口県(9), 島根県(8), 鳥取県(1)
四国	24名	愛媛県(11), 香川県(5), 高知県(5), 徳島県(3)
不明	7名	
計	9,135名	

②市区町村別（埼玉県・東京都）

全体の 59.2 %を占めた埼玉県と東京都の観光客について、市区町村別出発地の調査を実施したところ、図 5（埼玉県）、図 6（東京都）のとおりとなった。

・埼玉県

埼玉県内の上発地で最も多かったのは前年と同様 さいたま市 であり、埼玉県全体の 17.1 %を占めた。距離の近さ、人口の多さ（1,215,846 人、平成 21 年 4 月 1 日現在）、および、J R 川越線、国道 16 号などによる交通アクセスの利便性が最上位となった要因と思われる。

上位の所沢市（西武新宿線、県道川越・所沢線）、狭山市（西武新宿線、国道 16 号）、ふじみ野市（東武東上線・国道 254 号）などについても、交通アクセスの利便性が上位となった要因と思われる。

その他上位の市町村についても、交通アクセスに優れたところがほとんどであった。

・東京都

東京都内の上発地で最も多かったのは前年と同じ 練馬区 であり、東京都全体の 9.6 %を占めた。さいたま市と同様、距離の近さ、人口の多さ（704,590、平成 21 年 4 月 1 日現在）、および、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道 254 号）、関越自動車道（練馬 I C ～川越 I C）など、交通の利便性が他の市区町村に比べて高いことが最上位になった要因と思われる。

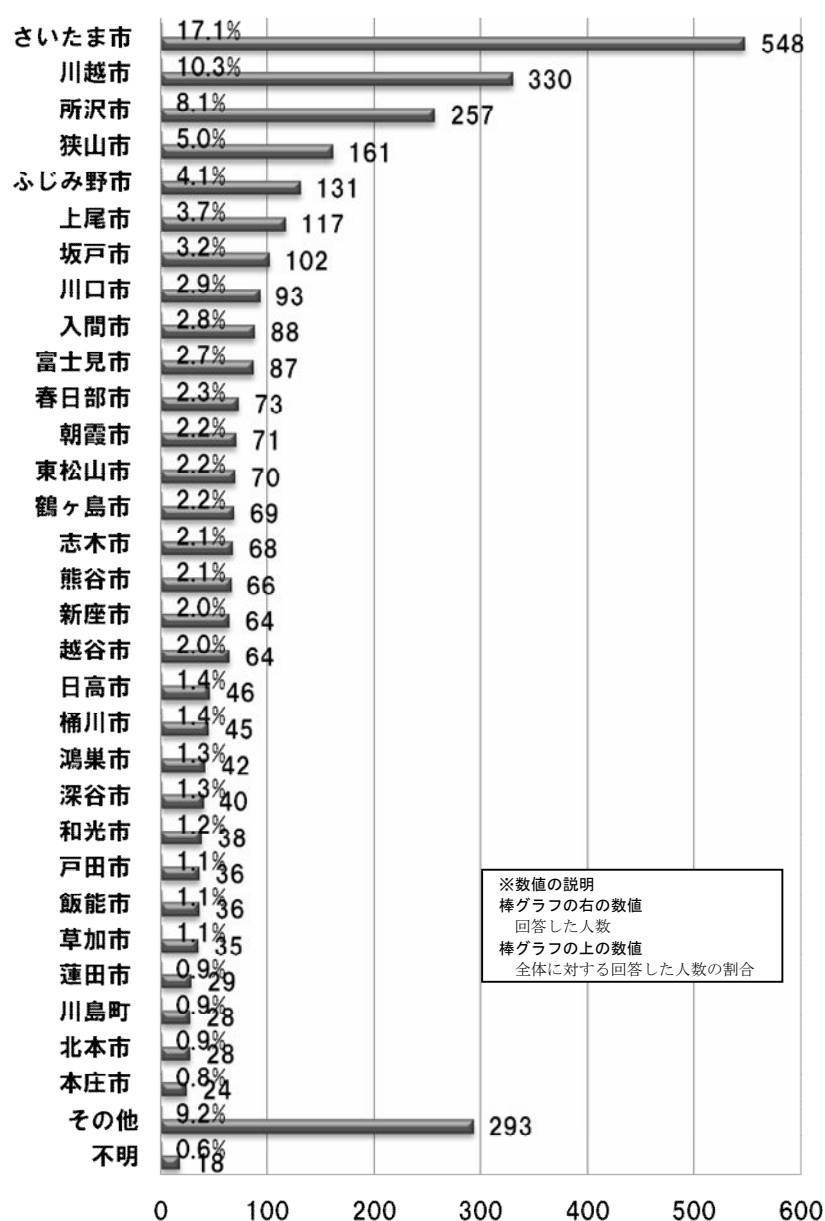
次点の 板橋区 も、人口の多さ（534,957 人、平成 21 年 4 月 1 日現在）に加えて、J R 埼京線（川越線へ乗り入れ）、東武東上線、川越街道などの交通アクセスの利便性が要因と思われる。

3位の八王子市も同じく、特別区（23区）以外で最も人口の多い都市（556,750人、平成21年1月1日現在）であることに加え、JR八高線がJR川越線へ乗り入れていること、平成19年6月に圏央道八王子ジャンクションが開通したことによる交通の利便性の向上などが要因と思われる。

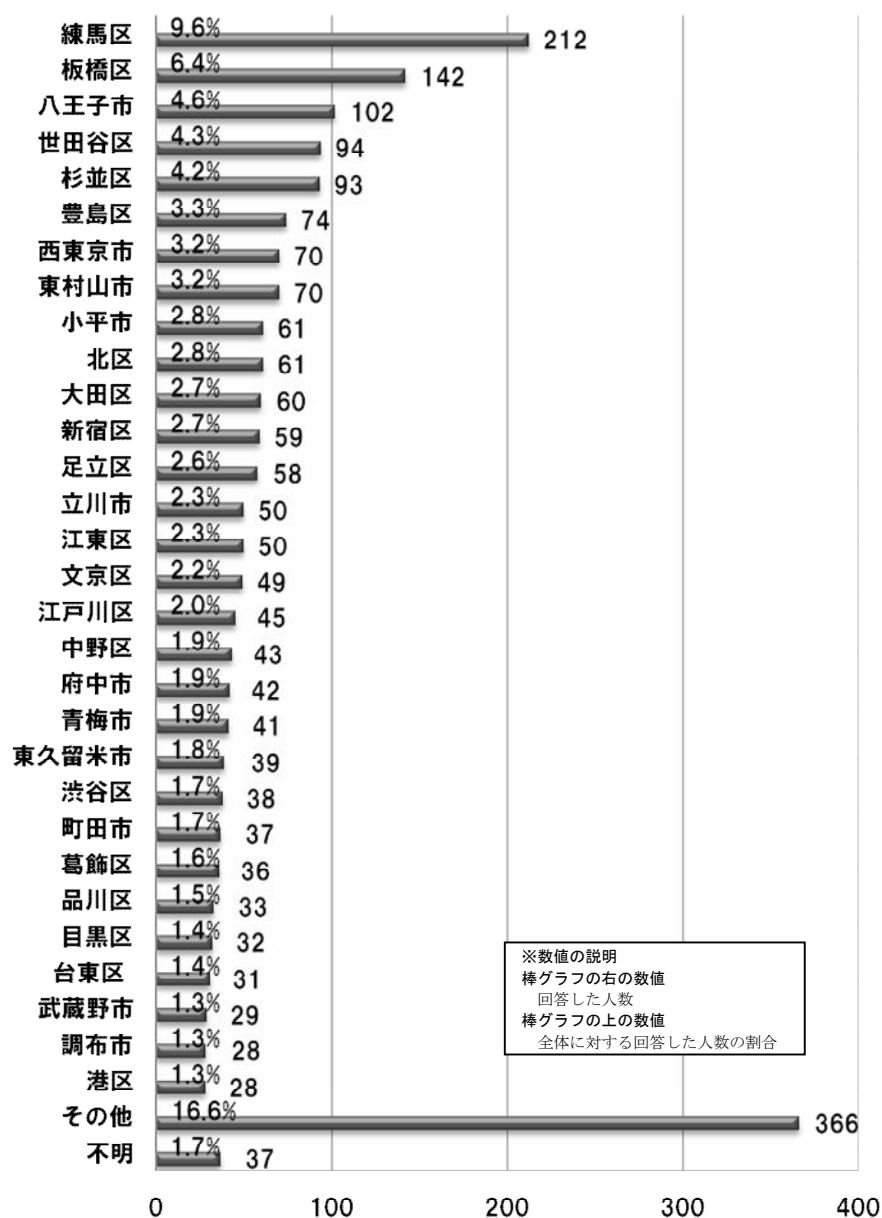
そのほか上位の市区町村も、人口が多いこと（世田谷区、杉並区、豊島区など）、または、交通アクセスの利便性が高いこと（杉並区、豊島区、東村山市、小平市など）などの利点があった。

また、平成20年6月14日に東京メトロ副都心線が開通し、川越駅から渋谷駅まで乗り換えなしで行けるようになった。平成19年の渋谷区を出発地とした人の割合は1.1%であり、平成20年度は1.7%であることから、若干の上昇ではあるが副都心線開通の影響があると考えられる。

（図5）埼玉県の市町村別出発地



(図6) 東京都の市区町村別出発地



(2) 国 外

国外から出発した観光客は 206 名であり、香港（36 名）、アメリカ合衆国（32 名）、台湾（27 名）、中国（17 名）、韓国（16 名）が上位となった。

川越市川越駅観光案内所（ビジットジャパン案内所）の平成 20 年外国人観光客利用者数も、東アジア（韓国：175 名、中国：118 名、台湾：133 名、香港：362 名など）及びアメリカ合衆国（358 名）が他地域に比べて圧倒的に多いことから、同様の結果となった。

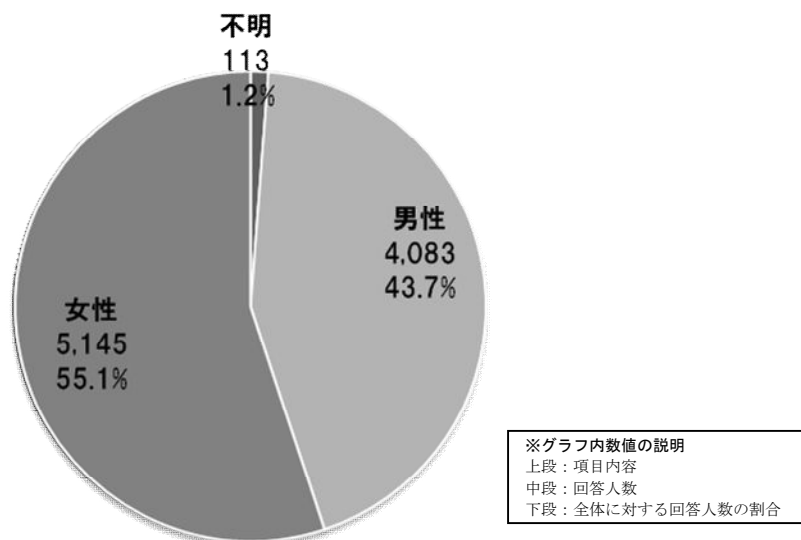
（表 2）国別出発地

国 名	回答者数
香港	36 名
アメリカ合衆国	32 名
台湾	27 名
中国	17 名
韓国	16 名
タイ、ドイツ	各 9 名
カナダ、フランス	各 7 名
イギリス、イタリア、オーストラリア、フィリピン	各 5 名
シンガポール	4 名
ブラジル、ロシア	各 3 名
オランダ、スペイン	各 2 名
オーストリア、スイス、スウェーデン、セネガル、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、フィンランド、プエルトリコ、ベトナム、ボスニア・ヘルツェゴビナ	各 1 名
不明	1 名
計	206 名

2-3-2. 性別調べ

性別は、平成 17 年、19 年の調査と同様に女性が男性を上回っており、女性（55.1%）、男性（43.7%）という結果であった。（図 7）

（図 7）性別

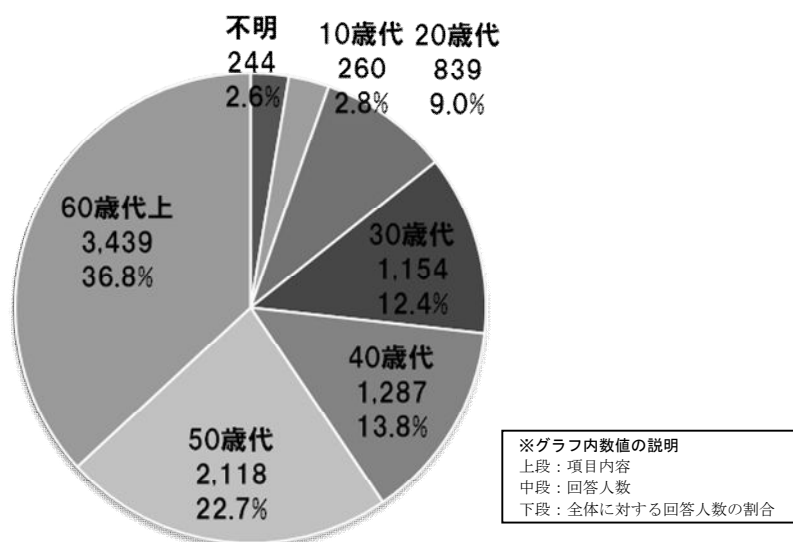


2-3-3. 年齢調べ

年代の上昇に比例して、観光客数も上昇した。（図 8）

50歳代以上の中高年層が過半数の59.5%となり、平成 17 年、19 年の調査と同様となった。

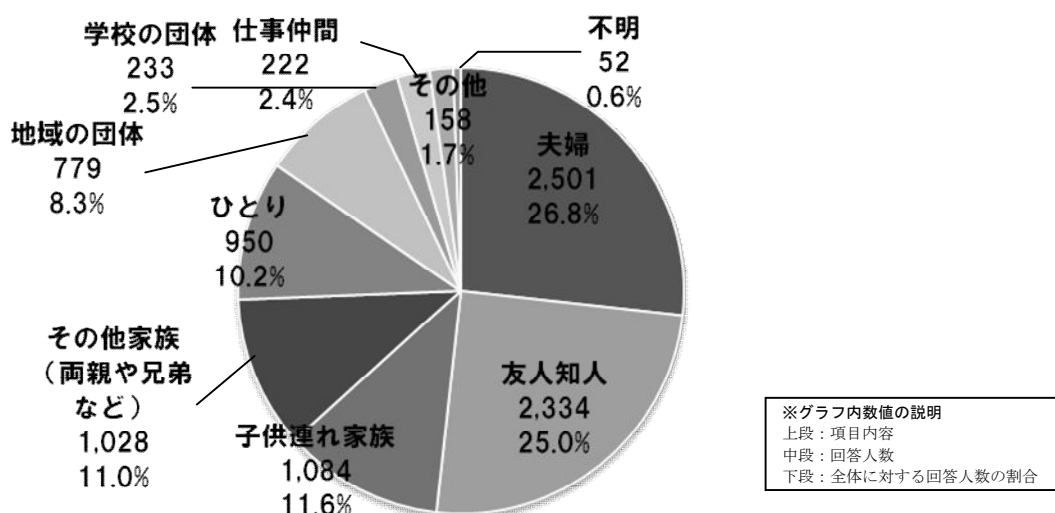
（図 8）年齢



2－3－4．同行者調べ

夫婦で川越を訪れる観光客が最も多く（26.8%）、子供連れ家族（11.6%）やその他家族（11.0%）なども含め、家族関係者と川越を訪れる観光客がおよそ半数（49.4%）を占めている。（図9）

（図9）同行者

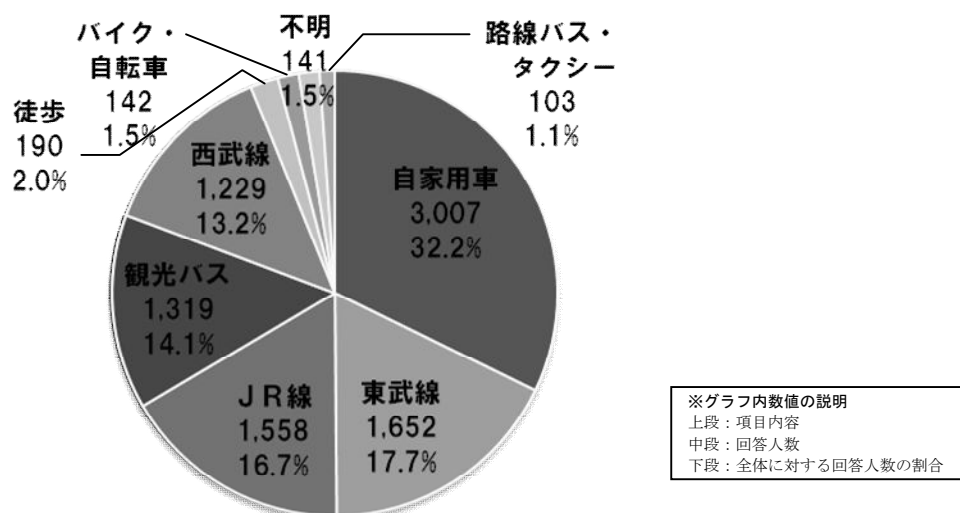


2－3－5．交通手段調べ

川越に乗り入れている鉄道3社の利用率を合計すると約半数（47.6%）となり、平成19年とほぼ同じ水準（47.7%）となっており、鉄道で川越を訪れている観光客が最も多い結果となった。（図10）

平成17年観光アンケート調査より自家用車利用率は年々減少（39.7%→36.2%→32.2%）している。観光バス利用率は平成19年に比べて増加（9.4%→14.1%）となっている。

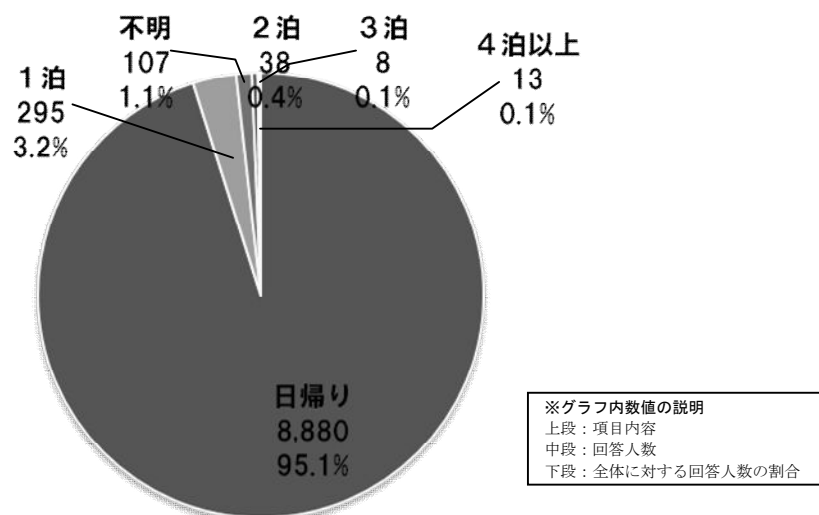
（図10）交通手段



2－3－6．滞在期間調べ

川越市内の滞在期間は日帰りが 95.1% と、ほとんどを占めた（図 1 1）。これは、平成 19 年（日帰り： 95.0%）と同様の結果であった。

（図 1 1）滞在期間



宿泊観光客の出発地

川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は 354 名（ 3.8% ）であり、その内訳は国外が出发地の観光客が 9 名、国内が出发地の観光客が 345 名であった。

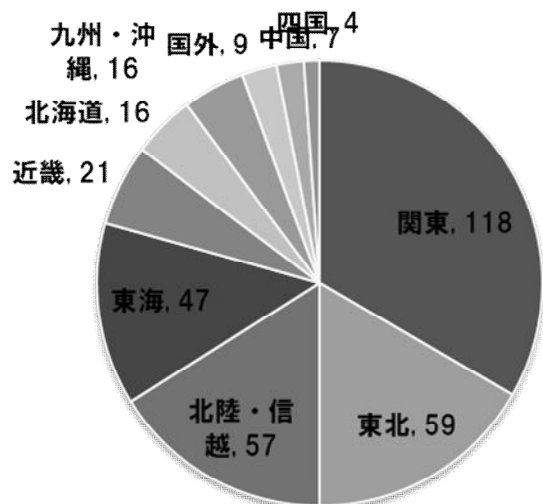
国外が出发地の観光客の内訳は、アメリカ合衆国（ 4 名）、カナダ、ドイツ、韓国、香港、ブラジル（以上各 1 名）であった。

国内の出发地の地方別内訳は（図 1 2）、都道府県別内訳は（図 1 3）のとおりである。

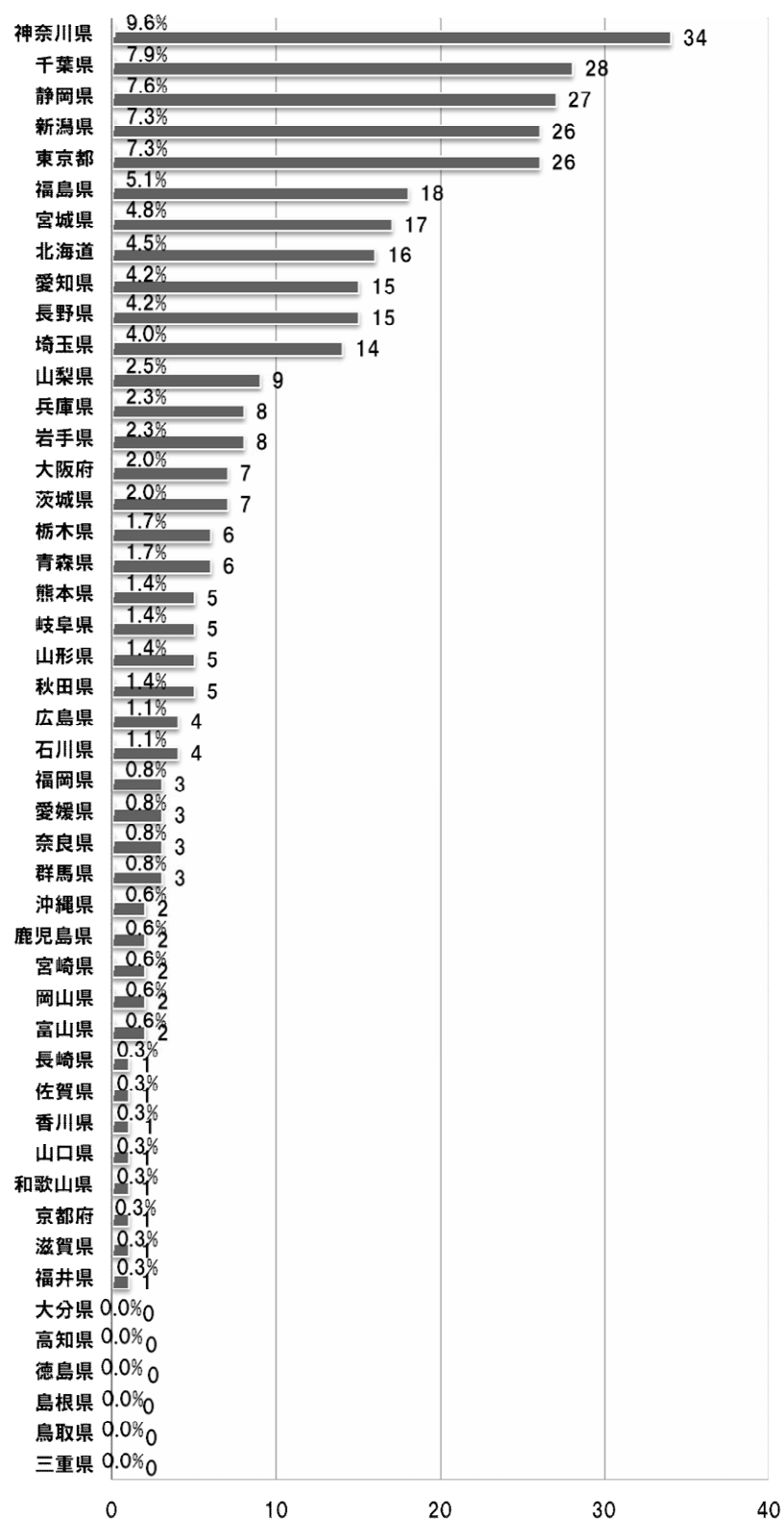
都道府県別では平成 19 年と同様に神奈川県が最も多く（ 34 名、 9.6% ）、次点は千葉県（ 28 名、 7.9% ）であった。

また、埼玉県を出発地とする観光客も 14 名（ 4.0% ）が宿泊していた。

（図 1 2）宿泊観光客の地方別出发地



(図 1 3) 宿泊観光客の都道府県別出発地

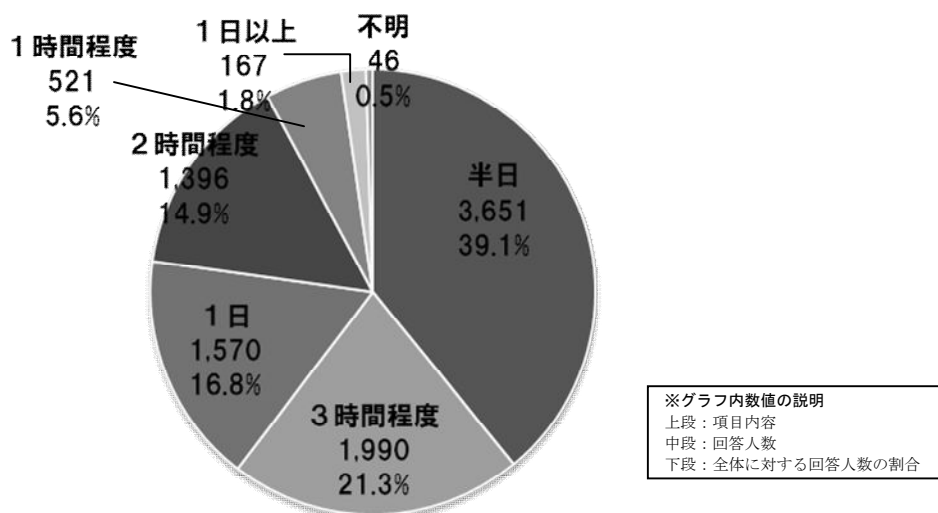


2-3-7. 観光時間調べ

川越は日帰り観光が主力となっているため、観光時間が3時間程度から半日の観光客が多くを占めた。（図14）

平成17年からの観光アンケート調査と比較すると、観光時間が1～3時間程度の観光客率の推移は（47.1%（H17）→35.1%（H19）→41.8%（H20））、半日～1日の観光客率の推移は（50.9%（H17）→62.7%（H19）→55.9%（H20））となっている。

（図14）観光時間

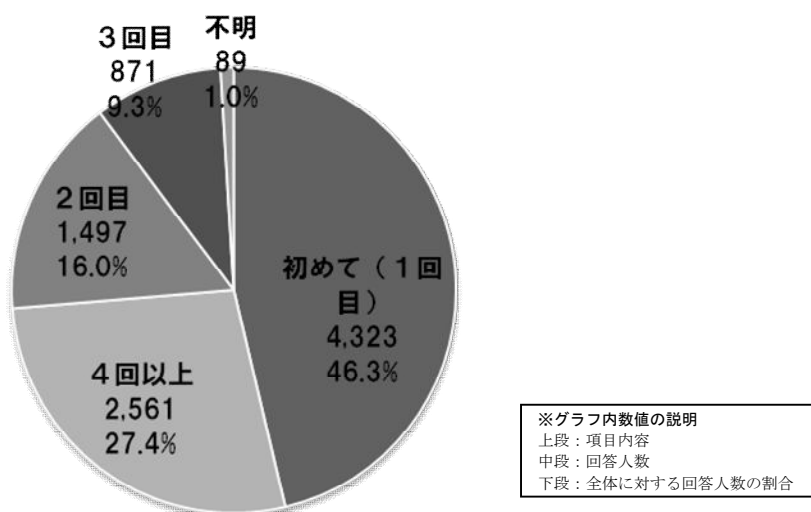


2-3-8. 来訪回数調べ

川越を「初めて」訪れた観光客は46.3%、2回以上訪れている「リピーター」は52.7%であった。（図15）

リピーターの中でも、川越を4回以上訪れているリピーターが多くを占めた（27.4%）。これらは、平成19年とほぼ同じ水準となっている。

（図15）来訪回数



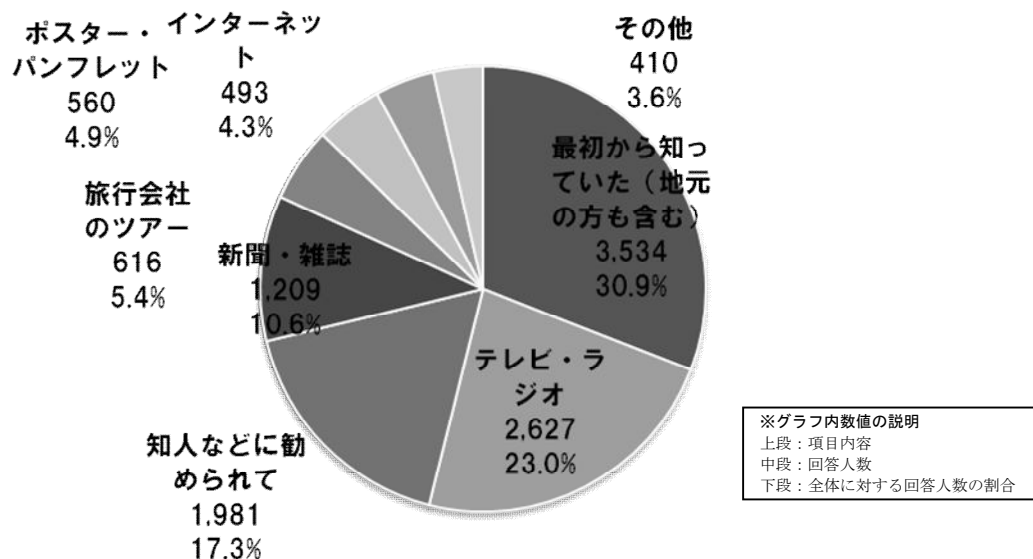
2-3-9. 認知方法調べ

川越を知った方法は、最初から知っていた（地元の方も含む）が 30.9% と最も多かった。（図16）そのうち、地元の方を除くと、3,204 人となり 28.0% という結果となる。平成19年の観光アンケート調査では、元から川越を知っていた人の割合は全体の約 17.5% であった。

また、平成19年と比較してテレビ・ラジオで知った人は（32.9% → 23.0%）、新聞・雑誌で知った人は（16.1% → 10.6%）と大きく減少している。

このことから、メディアを通じて初めて川越を知る人の割合が減り、元から川越を知っている人の割合が増えていると推測でき、川越の認知度が広がっていることが伺える。

（図16）認知方法調べ

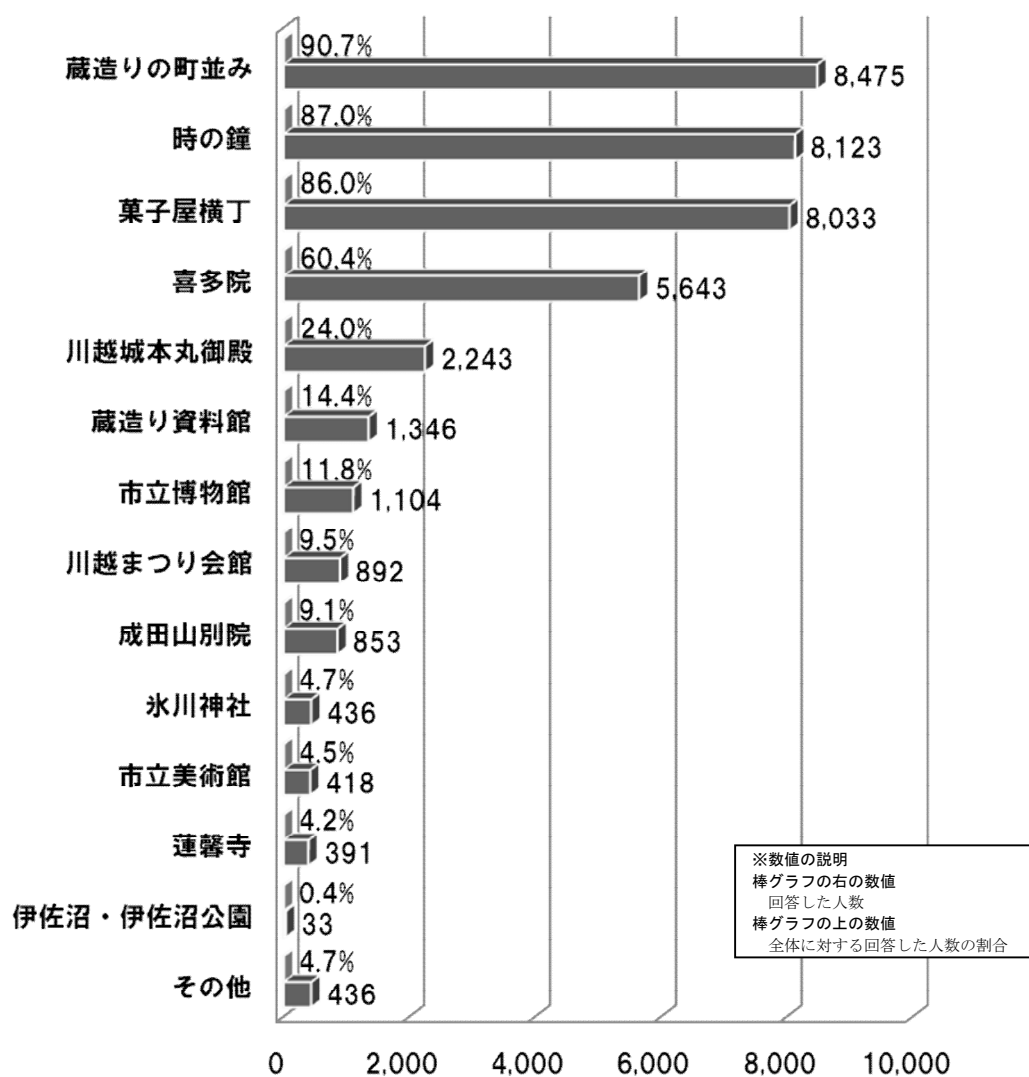


2-3-10. 立ち寄り観光地調べ

立ち寄り観光地は、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁が全体の9割近くを占めている。（図17）また、平成19年の観光アンケート調査と比較しても、3地点とも割合が上昇（蔵造りの町並み（89.4% → 90.7%）、時の鐘（85.3% → 87.0%）、菓子屋横丁（85.3% → 86.0%））している。観光客のほとんどの方が蔵造りの町並み周辺を訪れている。

ただ、川越まつり会館（11.4% → 9.5%）、蔵造り資料館（15.7% → 14.4%）、市立博物館（15.4% → 11.8%）、市立美術館（5.2% → 4.5%）の4館とも、平成19年と比較して入館者の割合が減少している。市立博物館、市立美術館については平成20年10月21日より川越城本丸御殿が改修工事のため休館となったことが、こちらのエリアへ訪れる観光客の減少に影響していると推測される。

(図 1 7) 立ち寄り観光地



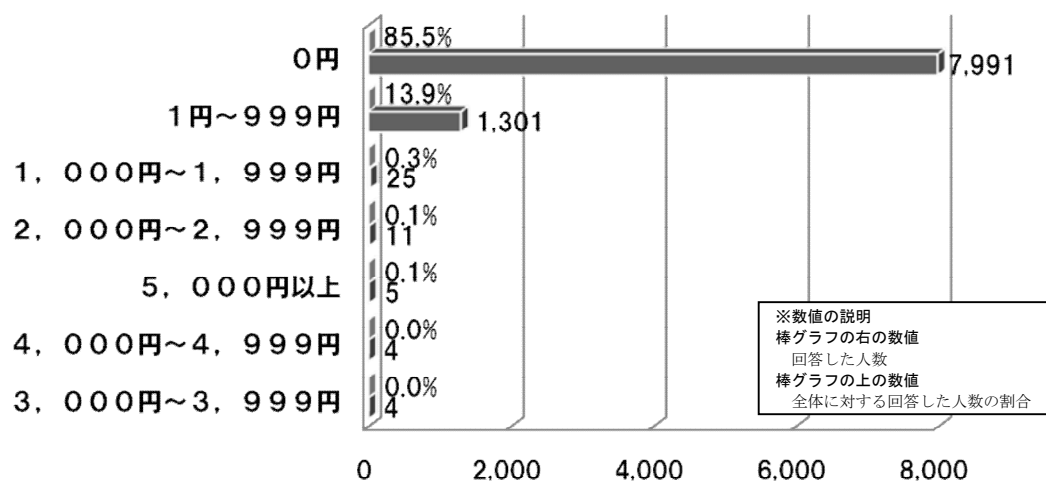
※回答者 1 人につき、複数回答あり

※割合表示 (%) は、アンケート回答者総数 (9,341 名) に対する、各項目を回答した人数の割合である。

2-3-11. 交通費調べ

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」の人が 85.5% と多くの割合を占めている。
 (図18) 「支出する」割合は 14.5% であり、その多くは 1,000 円未満の支出であった。また、交通費を支出する観光客1人あたりの平均交通費は 481 円であり、平成19年の 941 円を大幅に下回った。

(図18) 立ち寄り観光地

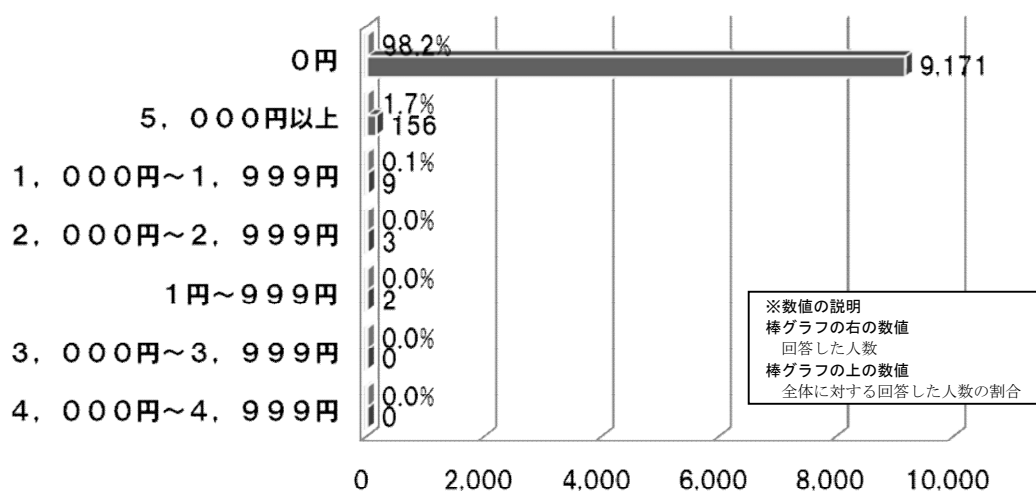


2-3-12. 宿泊費調べ

宿泊費を支出する観光客の割合は、全体の 1.8% であった。この結果からも、川越を訪れる観光客は圧倒的に日帰り（又は別の場所で宿泊する）観光客が多いことが伺える。

また、宿泊費を支出する観光客1人あたりの平均宿泊費は 10,808 円である。

(図19) 宿泊費

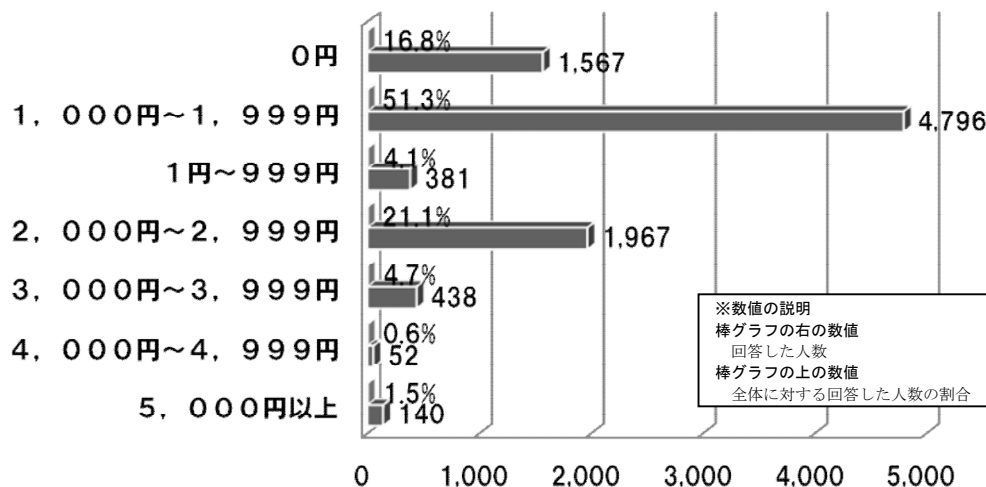


2-3-13. 飲食費調べ

市内における飲食費は「支出なし」と回答した観光客が 16.8% であり、平成 19 年の 17.6%、平成 17 年の 26.3% と比較して減少しており、消費活動率は年々上昇しているといえる。（図 20）

飲食費は 1,000 円 台が最も多く（51.3%）、飲食費を支出する観光客 1 人あたりの平均飲食費は 1,635 円（平成 19 年：1,618 円）であった。

（図 20）飲食費

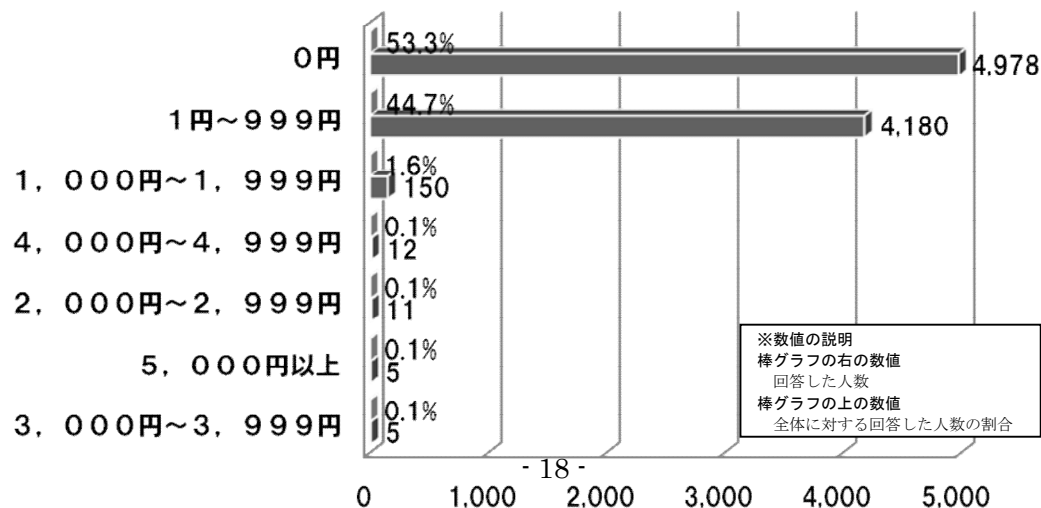


2-3-14. 入館料・入場料調べ

市内における入館料・入場料は「支出なし」と回答した観光客が 53.3%、「支出あり」と回答した観光客が 46.7% であった。（図 21）「支出なし」の割合は、平成 17 年（73.0%）、平成 19 年（58.7%）であることから、消費活動率は上昇している。

入館料・入場料は 1,000 円未満 が多く（44.7%）、支出する観光客 1 人あたりの平均入館料・入場料は 457 円 であり、平成 19 年（477 円）に比べ減少した。

（図 21）入館料・入場料

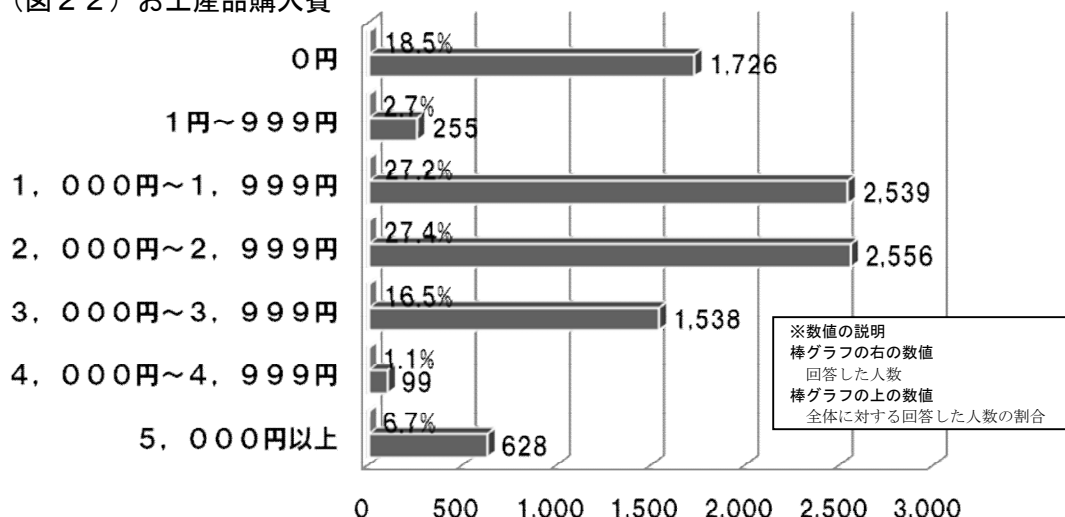


2-3-15. お土産品購入費調べ

市内におけるお土産品購入費は「支出なし」と回答した観光客が 18.5%、「支出あり」と回答した観光客が 81.5%であった。（図22）

お土産品購入費は 1,000円 以上、3,000円 未満が多く（54.6%）、お土産品購入費を支出する観光客1人あたりの平均お土産品購入費は 2,314円であった。

（図22）お土産品購入費

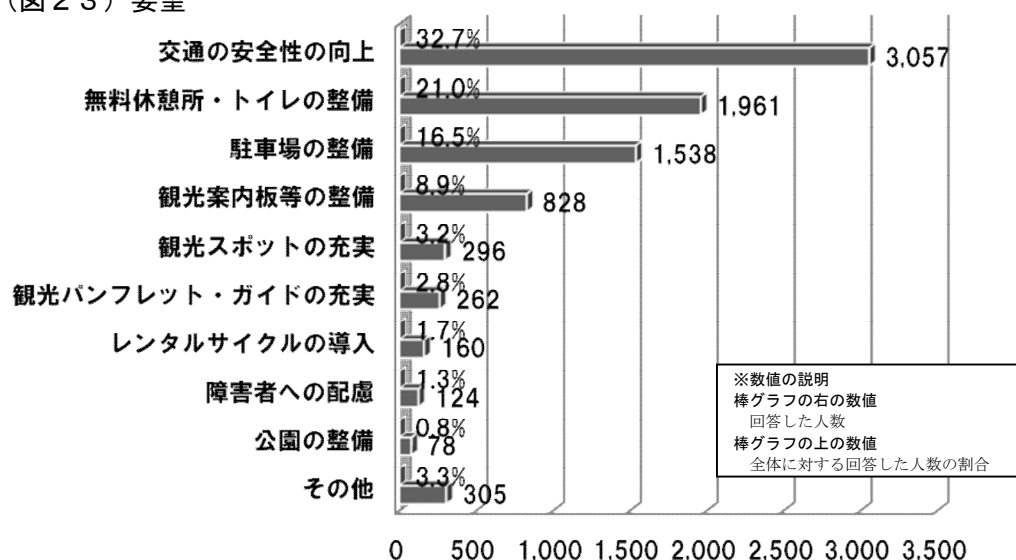


2-3-16. 要望調べ

「交通安全性の向上」（32.7%）が最も多く、平成17年、19年の観光アンケートの結果と同じであった。（図23）

平成17年、19年の観光アンケートでは、次点に駐車場の整備、3番目に無料休憩所・トイレが多かったが、平成20年では逆転した。

（図23）要望



※回答者1人につき、複数回答あり

※割合表示（%）は、アンケート回答者総数（9,341名）に対する、各項目を回答した人数の割合である。

2-3-17. 意見・感想調べ

川越に対する意見や感想を自由に述べていただいた結果、主に下記のような意見があった。要望的な意見では、「一番街通りを歩行者天国にしてほしい」、「車の規制をしてほしい」、「車が多くて危ない」等の交通に対する要望がかなり多かった。その他には、「駐車場を増やしてほしい」、「案内板を見やすくしてほしい」、「古い街並みをこのまま維持してほしい」といった要望が多かった。

(表3) 川越に対する主な意見・感想

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 一番街を歩行者天国にしてもらいたい・ 休日には一番街通りの交通止めて・ 一番街の通り車が多くて危ない。せめて土日だけでも歩行者天国にしてもらえないか・ 人混みの中に車が入ってきて危ない・ 車が多すぎて、蔵造りの町並みを落ち着いて観光できない・ 無料の駐車場がほしい・ 駐車場の数が少ない・ これだけ観光客が増えているので、駐車場を整備する必要があると思います・ 蔵造りの通りに駐車場が少なくて困りました・ 自転車・バイクの駐輪場が見当たらない・ 駐車場の案内看板をはっきり表示してほしい・ 案内看板の数が少ない、あっても字が小さくて見にくい・ 英語の観光案内看板の充実を・ 案内看板の→印がよくわからない・ パンフレットをもらったが地図が細かすぎて分かりにくい・ 今の町並みをこのままずっと残してほしい・ 新しい建物を建てないでほしい・ 蔵造りの町並みは高い建物がなくてよい、この景観を保って下さい・ 観光看板が少ない。・ 気軽に休める休憩所が少ない・ 歩いて回れる街ですが、ベンチがある休憩所をもっと多くつくってほしい・ 授乳室・おむつを替える場所が少ない・ トイレをきれいにしてください・ 洋式トイレが少ない・ トイレの中が暗くて怖い感じがした・ 巡回バスと名所めぐりバスが共用にならないか。わかりづらい・ バスの乗り場がわかりにくい。また、バスのコースもわかりにくい・ 街中にゴミ箱が不足している・ 木をなるべく多く植え、緑を増やしてほしい・ 当日ガイドを申し込めるようにしてほしい・ 川越駅の近くにレンタサイクルがあるとよい・ 高齢者への配慮にもう少し目をむけて観光造りをしてほしい（例えばバリアフリーの充実等） |
|---|

3. 観光消費額

平成 20 年度観光アンケート調査においても、観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産品購入費」の 5 項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成 19 年と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。（表 4）

平成 20 年の入込観光客数は 604 万 7 千人であったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないため、平成 17 年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため（11 ページ、図 9 参照）、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数 604 万 7 千人の約 40%の 241 万人と仮定し（平成 19 年は 598 万 1 千人の約 40%である 240 万人を用いた）、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを算出した。

（表 4）消費項目別の観光客平均消費額

項 目	消費活動率 ※①	平均消費額 ※②	消費活動人数 ※③	消費総額 ※④
交 通 費	14.5%	481 円	349,450 名	168,085,450 円
宿 泊 費	1.8%	10,808 円	43,380 名	468,851,040 円
飲 食 費	83.2%	1,635 円	2,005,120 名	3,278,371,200 円
入館料・入場料	46.7%	457 円	1,125,470 名	514,339,790 円
お土産品購入費	81.5%	2,314 円	1,964,150 名	4,545,043,100 円
計				8,974,690,580 円

※①消費活動率…アンケート回答者総数(9,341 名)に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客 1 人あたりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数 241 万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消 費 総 額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

平均消費額が最も高かったのは「宿泊費」（10,808 円）、最も低かったのは「入館料・入場料」（457 円）であった。

ただし、消費活動人数を踏まえたうえで算出した消費総額で最も多かったのは「お土産品購入額」（約 45 億円）、最も低かったのは「宿泊費」（約 4 億 5 千万円）であった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を算出したところ、約 89 億 7,400 万円となった。平成 19 年観光アンケート調査（約 88 億 7,700 万円）と比較して、約 1%の上昇となった。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表 5）

また、宿泊観光客については「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推測）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推測）がいたため、両者を区別して算出した。

（表 5）滞在形態別の観光客平均消費額

項 目	人 数	平均消費額
宿泊観光客（宿泊費支出あり）	154 名	17,374 円
宿泊観光客（宿泊費支出なし）	200 名	4,637 円
日帰り観光客	8,880 名	3,484 円
観光客全体	9,341 名	3,726 円

※アンケート回答者総数 9,341 名のうち、宿泊か日帰りかが不明であった 107 名は、宿泊観光客および日帰り観光客の数値に含まれていない。

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 17,374 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 4,637 円、日帰り観光客は 3,484 円であった。

また、観光客全体では 3,726 円であった。これは、3,697 円であった平成 19 年観光アンケート調査から 29 円増加した。



川越市観光アンケート調査報告書 平成20年度
平成21年5月

編集・発行

川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940（直通） 049-224-8811（代表）

FAX 049-226-4102